

研究会報告「CT研究会」

【研究会立ち上げの経緯】

今年度、県技師会を母体としたCT研究会が立ち上がり、11月8日には発足式と第1回目の研究会を開催しております。CT研究会立ち上げの経緯と今後の活動方針について報告いたします。

かねてより県技師会に対し学術事業の充実を望む声が多く、多くの会員より聞かれましたが、小野体制となつて、県技師会でも学術にも力を入れるという内容が打ち出されたことは、周知のとおりです。5月の通常総会においても、今年度の事業計画に学会、講演会、研修会に関する事業として既存の岩手MRI研究会、岩手消化管研究会、マンモカンファランスへの協力と合わせ各種研究会の発足が上げられております。CT研究会はその一環で発足したものです。理事会では今年度の事業を事業班と学術班の二班に分割し、副会長がそれぞれ統括することを決定しておりますが、CT研究会は学術班の事業として上野（総合水沢）、川島（県立釜石）両理事が担当することになりました。早速両理事により、以下の通り世話人が選出され、7月12日には、第一回目の立ち上げのための準備委員会を開催しております。

担当理事

上野秀昭（総合水沢病院）
川島 彰（県立釜石病院）

会世話人

駒木俊明（せいてつ記念病院）
藤村貴順（盛岡日赤病院）
東 英彦（県立中央病院）
羽成孝夫（医大付属病院）
東山行雄（国保藤沢町民病院）

【準備委員会】

準備委員会は二回開催され、県内のCT稼働状況などのデータ収集を行うと共に発足式及び第一回研究会の企画、今後の活動内容、役割分担などが協議されました。基本的な活動方針としては、母体が技師会であることも考慮し、多くの会員に参加していただけるよう、先端技術を追求するような従来の研究会のスタンスにとらわれず、使用する装置等にも制約を受けることのないような内容にすることや、研究会の継続性をにらんで、世話人毎に近隣の施設の会員から有志を募った研究班を組織し、テーマを決めた研究を行いながら定期的に発表することなどが確認されています。ま

た、会費については、案内文の郵送費など事務費や会議費、研究会参加者へのジュース代などに当てる目的で参加者より500円徴収することとしました。第二回研究会以降の具体的な活動内容は、発足式及び第一回研究会の出席者からアンケート調査を行い、参考にしながら世話人会で決定することにしております。尚アンケートの結果はおおむね以下のようなものでした。協力いただいた方には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

【研究会活動に関するアンケート集計結果】

回収率 73.25%（回収数 63/出席者 86）

地区別回答者数

北部	盛岡	中部	南部	三陸	賛助	無記名
3	36	13	3	3	1	4
5%	57%	21%	5%	5%	2%	6%

質問1 研究会の開催は年何回が適当か

1回	2回	3回	他	未回答
10%	71%	16%	2%	2%

質問2・3 開催曜日及び時間は

平日 午前	平日 午後	土曜 午前	土曜 午後	日曜 午前	日曜 午後
2%	2%	11%	83%	0%	3%
平日 9:00	平日 18:30	土曜 13:00	土曜 14:00	土曜 15:00	無回 答
2%	2%	6%	59%	2%	29%

質問4 希望する講師は

	1位	2位	3位	4位	5位
医師	41%	35%	10%	6%	0%
技師	27%	30%	10%	16%	0%
造影剤メーカー	0%	8%	25%	52%	0%
機器メーカー	21%	14%	41%	5%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	10%
無効	11%	13%	21%	21%	90%

質問5 研究会の開催場所は

盛岡市内	盛岡近郊	その他		
48%	49%	6%		
		中部	南部	無効
		33%	17%	50%

質問6 宿泊での研修会は必要か

必要	不必要	無効
5%	92%	3%

質問7 研修内容は（複数回答）

読影について	19%
撮影技術	15%
画像処理（3D含む）	12%
マルチCT（MDCT）	12%
造影手技について	12%
精度管理	10%

CTの基礎理論	8%
造影剤等リスクマネジメント	5%
シングルCT (SDCT)	5%
コンベンショナルCT	1%

【発足式】

平成 15 年 11 月 8 日午後 2 時より盛岡市三本柳



発足式で挨拶をする小野会長

の盛岡日赤病院臨床講堂において、岩手県放射線技師会CT研究会の発足式及び第一回目の研究会が 86 名の会員の参加を得て開催しております。約 20 分間の発足式では、小野会長から挨拶をいただいた後、上野担当理事から研究会発足に至る経緯の説明と世話人の紹介が行われ、最後に会費やアンケートについての説明をしてそのまま研究会に移行しました。

【第一回研究会】

講演

「安全で質の高い医療を提供するための方策」

第一製薬 仙台支店
造影剤担当課長 馬場英雄

当初の案内とは異なりましたが、医療におけるリスクマネジメントの講演で、昨年だけでも 15003 件の事故が報告され、多くの医療事故が発生する中で、安全で質の高い医療を提供するためにどのようにしたらよいかを具体的に示したものでした。

現在、医療事故はミス、過誤、ニアミス（ヒヤリハット）に分類されていますが、ハインリッヒの法則によると軽傷 30 例に対し重症が 1 例発生するということで、ヒヤリハットなど軽傷でも繰り返しているうちに重症のミスにつながると警告した後で、事故の発生を未然に防ぐコツとして、ボケ型やドジ型など自分の性格を知っておくことや、責任追求型から原因追求型への懲罰モデルの

変更、潜在的なエラーであるインシデントの拾い上げとその活用が重要であるとかいせつされました。さらに、よく医師や看護婦間で聞かれるように「...を 100 注射してください」など 100ml であるのか 100mg であるのか曖昧なコミュニケーションによるミスも指摘されており、適切で標準化されたコミュニケーションも重要なことを付け加えました。

日常の業務では、患者の安全第一、役割の明確化、人間はエラーをするという認識が原則であり、付随して人間の限界を考慮することや、ダブルチェック、ハウレンソウ（報告、連絡、相談）といった基本的な行動が必要としました。

放射線技師に関しては、患者の監視や器機の日常的な点検、安全装置の確認は常に意識しなければならない基本的な義務であるとし、造影剤による副作用は、最近問診の他に予想外の事態に備えて承諾書をとるケースが増えているが、最低問診は行うべきであること、嘔吐物による窒息をさけるための禁食も殆ど意味がないものとなっていることなどを話されました。最後に、最近全国で注目を浴びた医療事故の裁判の例を挙げるなど、医療人として真剣に取り組まなければならないことを痛感させられる内容でした。

現在、国を挙げて医療事故防止を唱え、殆どの施設で委員会を設置し取り組んでいる中で、タイムリーで有用な講演でした。しかし、テーマにボリュームがありすぎて、かなり急いだにもかかわらず、時間不足は否めず、少々消化不良の感じも残ったのも事実です。



講師の廣瀬先生

「CTの緊急症例と読影のポイント」

盛岡日赤病院 放射線科副部長 広瀬敦夫

盛岡日赤で得られた、緊急のCT症例の中から、症例を供覧しました、読影の解説を行いました。例えば、腹痛での緊急CT検査の場合でも鼠径ヘルニアの嵌頓穿孔などの場合もあるので、骨盤腔の下部までの撮影が望ましいことや、消化管穿孔を疑う場合は、遊離ガスの判別のために air density の画像も付け加えると診断がしやすいなど一つの症例に対し、我々のために撮影のポイントなども交えながら、丁寧に解説していただきました。



症例の中から（腸管壊死による壁在気腫）

また、放射線技師からの読影のアドバイスは役に立つことを強調し、特に検査中に画像の異常を指摘した連絡は、その後の展開を左右するので心がけてほしいとの希望も出されるなど、実際に翌日から実現できる貴重な講演でした。参加者からの評価も高く、シリーズ化を要望する声も聞こえております。更に、担当理事から症例集として非常に優れていることから、今後我々技師のためのティーチングファイルとして生かすことが出来ないかとの意見も出されており、講師の廣瀬先生の許可を初めとした活用の可能性を検討しております。

CTやMRI検査においては、検査目的の理解や造影における血行動態などの理解が必要で、技師により検査結果に大きな差が出る場合がありますが、このように臨床を知ると言うことで、よい画像もさることながら、“診断に役立つ画像”という意識が生まれ、そういった意味では、今後の研究会の一つの方向性を示した講演であったようにも考えられました。

【今後の活動内容】

今後の活動内容は、先のアンケート結果の基づき、参加人数や継続性を考慮しながら、参加者に満足していただけるような、質の高い研究会を心がけ、担当理事を中心に世話人で協議してまいります。会員の皆様には今後ともご

協力いただきますようお願いいたします。また、当研究会に対してご意見、ご要望があれば、担当理事、世話人を通じてどしどしお寄せ下さい。



86名の参加者であふれる日赤臨床講堂